章	項　目	特記事項
8章 耐震改修工事	15.(12)溶接部の試験	溶接部の外観試験：　※告示第1464号第二号による試験: ※JASS 6 附則6(付表3「溶接」): 完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験：　(・)適用する　・適用しない ◎工場溶接の場合 製作工場の社内検査：　・行わない　※行う（全数検査を行い試験結果報告書を提出） 第三者機関による検査：　※行う　・行わない ◎工場溶接の場合 ＡＯＱＬ：　※2.5%　・4.0% 検査水準：　・第1水準　・第2水準　・第3水準　※第4水準　・第5水準　・第6水準 ◎工事現場溶接の場合 第三者機関による検査：　※行う　・行わない 検査率　：　(・)100%　・　30　% 放射線透過試験：　・適用する　(・)適用しない （上記内容の詳細は「耐震改修工事特記仕様書補足(1)」による）
	17.(4)塗料の種別	１７．鉄骨の錆止め塗装 ＳＲＣ造の鋼製スリーブ（鉄骨に溶接されたもの）の内面： ・図示　・標準仕様書 表7.3.1【※A種　・B種　・C種】　・ 耐火被覆材の接着面：　・図示　(・)標準仕様書 表7.3.1【(・)A種　・B種　・C種】　・
	18.(2)耐火被覆の種類等 18.(3)耐火性能、品質等	１８．耐火被覆 耐火被覆材の種類及び性能：　※図示（意匠図に特記）・ 耐火被覆材の工法：　※図示（意匠図に特記）・吹付工法　・巻付け工法　・ 耐火被覆の耐火性能：　※図示（意匠図に特記）・建築基準法に基づく所定の性能
	20.5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合	２０．溶融亜鉛めっき工法 摩擦面の処理：・8.20.5(1)(¥U+FF71)(ブラスト処理)　※8.20.5(1)(¥U+FF72)(リン酸塩処理)・図示 すべり係数試験の実施：　・行わない　・行う 試験の方法、試験片の摩擦面の状態：　・構造特記仕様書による　・図示　・
	21.2 既存部分の撤去等 21.3 既存部分の処理 21.6 鉄筋の加工¥U+FF64組立 21.8 コンクリートの打込み 21.9 既存構造体との取合い 21.10 仕上げ	２１．現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 既存仕上げの撤去範囲：　※標準仕様書8.21.2(1)(ｱ)による　・協議による　・ 設備配管等の撤去範囲：　※標準仕様書8.21.2(1)(ｲ)による　・ 設備配管等の移設範囲等：　※標準仕様書8.21.2(1)(ｲ)による　・ 既存構造体の撤去範囲：　・図示　・協議による　・ 既存構造体の鉄筋、鉄骨の処置：　・図示　・ 「耐震改修工事特記仕様書補足」の「3.既存部分の目荒し」参照 割裂補強筋の仕様：・図示　・「耐震改修工事特記仕様書補足」の「4.既存構造体との取合い」参照 シアコネクタの仕様：「耐震改修工事特記仕様書補足」の「5.シアコネクタ」参照 打込み工法：　・流込み工法　・圧入工法　・図示　・ 既存構造体と増設壁との取合い：　※標準仕様書8.21.9による　・図示　・ グラウト材は2.12による。 増設後の仕上げ：　・図示　・
	22.7 既存構造体との取合い 22.9 仕上げ	２２．鉄骨ブレースの設置工事 割裂補強筋の仕様：　・図示　・ ブレース設置後の仕上げ：　・図示　・
	23.1 一般事項 23.5 溶接金網巻き工法 溶接閉鎖フープ巻き工法 23.6 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 23.7 仕上げ	２３．柱補強工事 工法の種別：　・溶接金網巻き工法　・溶接閉鎖フープ巻き工法 ・鋼板巻き工法　・帯板巻き付け工法 外部に面する打放し仕上げの増打厚さ：　・25mm　・20mm　・15mm　・ 型枠セパレーターとしてのシアコネクタの使用：　・適用する　・適用しない 打込み工法：　・流込み工法　・圧入工法　・図示　・ 工法の種別：　・鋼板巻き工法　・帯板巻き付け工法 柱脚の隙間：　・図示　・設けない　・設ける 柱頭の隙間：　・図示　・設けない　・設ける 補強工事後の仕上げ：　・図示　・

章	項　目	特記事項
8章 耐震改修工事	24.6 施　工	２４．連続繊維補強工事 ひび割れ部の改修工法：　・標準仕様書4.1.4に準ずる　・図示　・ 柱の隅角部の面取りの形状、寸法：　・図示　・ 連続繊維補強材の引張強度試験の数量：　・図示 連続繊維補強材の付着強度試験の数量：　・図示 補強工事後の仕上げ：　・図示　・
	25.2 施　工	２５．耐震スリット新設工事 スリットの幅、及び深さ：　・図示　・ 耐火充填材の仕様箇所、及び仕様：　・図示　・ 遮音充填材の仕様箇所、及び仕様：　・図示　・
	26.7 支承材及び減衰材 26.10 支承材又は減衰材の設置 26.13 仕上げ 26.14 耐火被覆 26.15 免震エキスパンションジョイント等 26.16 検　査	２６．免震改修工事 支承材の材質等：　・図示　・ 減衰材の材質等：　・図示　・ 性能確認試験の項目：　・図示　・ 性能確認試験の数量：　・図示　・ 製品検査の項目等：　・図示　・ 材料の防錆処置：　・図示　※製造所仕様による 材料の設置位置寸法の許容差：　・図示　・製造所仕様による 割裂補強筋の適用：　・図示　・ 支承材又は減衰材設置後の仕上げ：　・図示　・ 支承材への耐火被覆の適用及び仕様：　・図示　・ 免震化部に設置するエキスパンションジョイントの仕様及び工法： ・図示　・製造所推奨仕様による　・ 検査の項目及び数量：　※検査項目は協議の上決定し、数量は全数とする　・図示
	27.2 既存部分の撤去等 27.4 減衰材 27.6 減衰材の設置 27.8 仕上げ 27.9 検　査	２７．制振改修工事 既存鉄骨の撤去範囲及び方法：　・図示　・ 既存鉄骨の処置：　・図示　・ 減衰材の材質等：　・図示　・ 性能確認試験の項目：　・図示　・ 性能確認試験の数量：　・図示　・ 製品検査の項目等：　・図示　・ 材料の防錆処置：　・図示　※製造所仕様による 材料の設置位置寸法の許容差：　・図示　・製造所仕様による 別置の材料の種類、形状、寸法、数量等：　・図示　・製造所仕様による 割裂補強筋の適用：　・図示　・ 減衰材設置後の仕上げ：　・図示　・ 検査の項目：　・図示　・
	28.2 既存杭の撤去等 28.3 土工事 28.4 地業工事	２８．土工事及び地業工事 既存杭の撤去、方法等：　・構造特記仕様書による　・図示　・ 既存杭の杭頭処理等：　・構造特記仕様書による　・図示　・ 既存杭の補強：　・図示　・ 既存杭の試験：　・図示　・ ◎埋戻し及び盛土 種別：　・A種　・B種　・C種　・D種 ・搬入まさ土（砂礫等の混入のない良質なものとし、水締め、機器による締固めとする） ◎建設発生土の処理 ・現場説明書による　・構外搬出適切処理　※構内指定場所堆積　・構内指定場所敷均し ・他現場に搬入（　　）　・ ・指定処分地（ ◎山留めの撤去 ・撤去　・存置　・ ◎試験杭 試験杭の位置、本数、寸法：　・図示　・

章	項　目	特記事項
8章 耐震改修工事	28.4 地業工事	◎載荷試験 載荷試験：　・水平試験　・鉛直試験　・ 試験杭の位置、本数、載荷荷重：　・図示　・ 試験方法：　・図示　・ 試験報告書の記載事項等：　・図示　・ ◎地盤の載荷試験 載荷試験：　・平板載荷試験　・ 試験の位置、載荷荷重：　・図示　・ 試験方法：　・図示　・ 試験報告書の記載事項等：　・図示　・ ◎杭地業は「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」４章［地業工事］による。
	●公４章　地業工事 公3.1 一般事項 公3.2 材　料 公3.4 セメントミルク工法 公3.5 特定埋設杭工法	●公３．既製コンクリート杭地業 工法の適用：　・セメントミルク工法(4.3.4)　・特定埋設杭工法(4.3.5) 材料の強度等による区分：　・ 杭の寸法、継ぎ手の箇所数、杭先端形状：　・図示　・ 支持地盤の位置、種類：　・図示　・ アースオーガーの支持地盤への掘削深さ：　・図示　・ 杭の支持地盤への根入れ深さ：　・図示　・ 杭の水平方向の位置精度：　・図示　・100mm以内　・ 根固め液の管理試験：　※表4.3.1による　・ 杭周固定液の管理試験：　※表4.3.1による　・ 施工法の種類：　・図示　・ 支持地盤の位置、種類：　・図示　・ 杭の水平方向の位置精度：　・図示　・100mm以内　・ 杭の継手の工法：　・アーク溶接　・無溶接継手（工法；　　） 杭頭の処理法：　・図示　・
	公4.3 材　料 公4.5 継　手	４．鋼杭地業 材料の種類：　・SKK400　・SKK490　・SHK400　・SHK490M　・図示 杭の継手の工法：　・自動アーク溶接　・半自動アーク溶接　・
	公5.1 一般事項 公5.4 材料その他 公5.5 アースドリル工法,リバース工法,オールケーシング工法 公5.6 場所打鋼管コンクリート杭工法及び拡底杭工法	５．場所打ちコンクリート杭地業 工法の適用：　・アースドリル工法(4.5.5)　・リバース工法(4.5.5)　・オールケーシング工法(4.5.5) ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法(4.5.6)　・拡底杭工法(4.5.6)　・図示 帯筋の加工、組立：　・図示　・ 鉄筋の最小かぶり厚さ：　・図示　・60mm　・　mm 鉄筋かごの補強：　・図示　・ 組立鉄筋の節の継手：　※重ね継手　・図示　・ セメントの種類：　・普通ポルトランドセメント　※高炉セメント　・混合セメント　・図示 コンクリートの設計基準強度：　・Fc=21N/mm2　・Fc=24N/mm2　・図示 コンクリートの種別：　・Ａ種　・Ｂ種　・図示 コンクリートのスランプ：　※18cm　・15cm　・図示 コンクリートの構造体強度補正値(S)：　・図示　※3N/mm　・ 支持地盤の位置、種類：　・図示　・ 杭孔壁の超音波測定：　・行なわない　・行う 杭の水平方向の位置精度：　・図示　・100mm以内　・ 支持地盤の位置、種類：　・図示　・ 杭の水平方向の位置精度：　・図示　・100mm以内　・
	公6.2 材　料 公6.3 砂利及び砂地業 公6.4 捨てコンクリート地業 公6.5 床下防湿層	６．砂利、砂、捨てコンクリート地業等 砂地業の種別：　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂　・ 防湿層の材料：　※ポリエチレンフィルム　t=0.15mm　・ 砂利及び砂地業の厚さ：　・図示　※60mm　・100mm　・120mm　・150mm　・ 捨てコンクリートの厚さ：　・図示　※50mm　・　mm　・120mm　・150mm　・ 床下防湿層の適用：　・適用しない　・適用する　・図示 床下防湿層の範囲：　・図示　・

OFFICE ALPHA Design CO.
Amenity Life Planners & Human Architects
アルファ設計株式会社
長野県諏訪郡下諏訪町４６４４－２　Ｎビル　TEL 0266-28-1721　FAX 0266-28-8485
一級建築士事務所登録（諏訪）G第 54181号
一級建築士登録 第210884号 西村厚志

DATE: ・ ・ R07・03・19

JOB NAME: 下諏訪総合文化センター小ホール及びもみの木モール天井耐震化等改修工事（建築工事）設計図

SHEET TITLE: 耐震改修工事構造特記仕様書（２）

SCALE: A1=NON　A3=NON　(100%)　(50%)

DR. SIGN.

NUMBER: S-02